

○君待つと

作詞：額田王 作曲：上野紘史 編曲：上野紘史

演奏:はるひのwithDODOWAKA

「君待つと 我が恋ひをれば わが屋戸の 簾動かし秋の風吹く」(額田王)

▷万葉集 巻4-488

(きみまつと あがこひをれば わがやどの すだれうごかし あきのかぜふく)

意味：あなたを待って私が恋しく思っていると、わが家の戸口の簾を動かして、秋の風が吹いてきます。

解説：秋の夜長にいつまでたっても来ない天智天皇の訪れを待ちわび、かすかな簾の音に一瞬、心をときめかすが、風だと分かって、期待から失望に思いは沈んでいきます。あなたかしらと、思ったのですが、秋風がやってきたのですね。

注：君=万葉の時代日は、女性が男性を呼ぶ時に使われた。特に大事な人に使われた。元々は「大君」とか「天皇」に対して使う言葉なので、尊愛の念が込められている。